

# 2022（令和4）年度事業報告

## I 概況について

2022（令和4）年度は、新規事業の立ち上げはなく、従来から実施している①アマチュア局に係る無線設備の技術基準適合証明・工事設計認証、②アマチュア局保証業務、③集合講習又はeラーニングによるアマチュア無線技士の養成、並びに④電波利用秩序の維持への協力の各事業について継続して実施した。また、青少年育成施策や受講者交流サイトの運用等を通じ、アマチュア無線の振興に貢献してきた。

特に、2020年年初から続くコロナ禍の制約の影響も残っていることに加え、2022年夏以降、景気が持ち直す中で、時間的制約等からか全体的に資格取得の動きが低調な傾向となっていると推察され、集合講習や三アマeラーニングの受講者が大きく減少傾向となっている。また、スプリアス確認保証業務においては、2021年8月に2022年11月末とされていた新スプリアス規格への移行措置期限が延長されたことにより更に申込数が減少するなど、厳しい事業運営となっている。

このように、全体の事業数が伸びない中、業務の効率的な実施を最優先としてこの一年取り組んできた。

今後、円滑な事業運営を確保するためにも、コロナ禍の影響が薄れた中、アマチュア無線全体の動きが低調となっている今、これまでの制度改正等を梃とし、アマチュア無線の新たな活用の提案や実体験等の提供を行い、関係者が一体となり裾野の拡大を図る取り組みを進めて行くことが必要である。

## II 法人運営について

### 1 役員体制

6月28日に2年ぶりに対面にて開催した第12回定時評議員会において、出身団体の異動により、田中謙治評議員の後任の評議員として富永昌彦氏を、竹内英俊理事の後任の理事として倉橋誠氏の選任について承認された。

また、8月30日に和泉勲理事がご病気により逝去されたため、総務省や法務局に対し必要な手続きを取っている。理事の総数は現在9名となっているが、定款に定める定員数（7名以上）は満足している。

故和泉様の生前のご協力に感謝するとともにご冥福をお祈りします。

## 2 一般法人への移行関係

2021年度公益目的支出計画実施報告書については、6月に開催された第32回理事会の承認を得て、その後開催された第12回定時評議員会へ報告の上、6月30日付けで内閣総理大臣あて提出した。

## 3 事務局体制

2023年3月末現在における職員の配置は、次のとおりである。

□ 本部職員（常勤役職員）	14名（13名）
□ 地方職員（非常勤職員）	26名（26名）
合計	40名（39名）

※（）内の数は、2021年度末現在のもの

## 4 評議員会及び理事会

(1) 評議員及び役員をJARDホームページに掲載した。

(2) 会議の開催状況

定時評議員会を1回、理事会を2回開催した。

## 5 その他

養成課程関係者の功労表彰を実施するとともに、HAM t t e 交信パーティーに協力をいただいたアイコム株式会社のクラブ局のうち、特に貢献が顕著な社員1名に対し特別表彰を行った。

## Ⅲ 事業概要について

### 1 技術基準適合証明・工事設計認証

(1) 取扱件数

8件について工事設計認証を行った。

(2) 測定器等の有効利用

「無線機器の電波測定サービス」及び「測定器室の開放（一般利用サービス）」のサービスを適切に実施した。

### 2 アマチュア局保証業務

開設及び変更に係る基本保証及びスプリアス確認保証を適切に行った。

### 3 集合講習による無線従事者の養成（第四級・三級集合講習）

第四級アマチュア無線技士及び第三級アマチュア無線技士の養成課程講習会を全国で開催した。また、第四級アマチュア無線技士の養成課程については、青少年に対する受講料の減額措置を継続している。

### 4 eラーニングによる無線従事者の養成（第二級・三級）

第二級アマチュア無線技士及び第三級アマチュア無線技士のeラーニングによる養成課程を実施した。第二級アマチュア無線技士については、四半期毎に受講者を募り実施している。

### 5 電波利用秩序維持への協力等

(1) アマチュア無線の適正利用に関する周知広報を行った。

(2) 各種イベント等の対応

全国各地で実施されたアマチュア無線関係のイベントに出展し、業務のPRを行った。

(3) 受講者支援（事後フォロー）

① 受講者交流サイト「HAM t t e」を運用した。

② 入門者に交信に慣れてもらう場として、年3回HAM t t e交信パーティーを開催した。

③ 年3回の交信パーティーに合わせ、初心者交信教室を開催した。

(4) ARDF大会への支援

7月開催の全国高等学校ARDF競技大会にゼッケンを提供するなど支援を行った。また、全日本ARDF競技大会は開催が中止されたため、支援等は行っていない。

(5) 一般財団法人日本UAS産業振興協議会（JUIDA）※との連携

ドローンFPVでのアマチュア無線利用における利便性の向上と適正化を図るため、JUIDAと連携を継続している。

※JUIDAは、日本のUAS（無人航空機システム）産業の振興と健全な発展を目指し、2014年7月に設立された団体

(6) FMぱるるん「OMのラウンドQSO」の番組内に設けられているJARDCコーナーに出演した。

### 6 新たな事業の検討及び組織運営その他

(1) 新たな事業並びにJARDCの法人としての在り方を検討した。

(2) アマチュア無線の制度改正に対応した。

(3) 評議員・役員に対し、業務実施状況について適宜情報提供を行った。